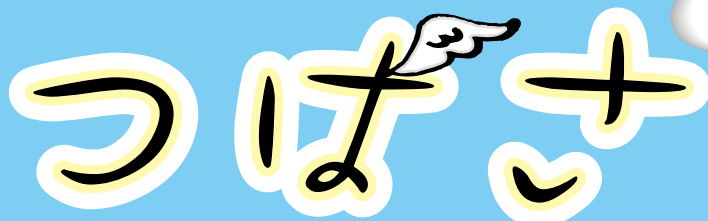


Community Medicine
— 地域医療の架け橋 —

2025年秋号

第 85 号



地域の皆さまに信頼される病院として
安全で質の高い医療を提供します。

独立行政法人地域医療機能推進機構
神戸中央病院
〒651-1145
神戸市北区惣山町2丁目1-1
TEL 078-594-2211
FAX 078-594-2244
<http://kobe.jcho.go.jp/>



消化器外科



外科(消化器外科)では上部消化管(食道、胃、十二指腸)・下部消化管(小腸、大腸)・肝胆膵疾患(肝臓、胆道、膵臓)をはじめとし、鼠径ヘルニア、虫垂炎、肛門疾患、外傷など幅広い領域で手術治療、抗がん剤治療などを行っています。

年間の手術件数は350例前後でそのうち4分の3が内視鏡を用いた腹腔鏡下手術となっています。腹腔鏡下手術は主に臍部を約1cmの小切開で開腹してカメラを挿入し、5mmまたは1cmの穴を数か所あけて専用の器具を挿入して手技を行い、5-6cmの小開腹で臓器を取り出すという術式です。胃や大腸の手術では主に10mm径の3D内視鏡を用いた手術を、ヘルニアや虫垂では主に5mm径の細いカメラを用いた手術を行っています。

定型的な術式に関してはできるだけクリニカルパスを適用して無駄の少ない、合併症の少ない治療を心がけています。他臓器浸潤など高度進行症例については泌尿器科・産婦人科をはじめとする他科との連携のもと可能な限り対応しております。

また以前より救急疾患にも力を入れてまいりましたが、近隣の医療機関からの当日依頼につきましてもできる限り対応してまいりたいと考えております。

今後も地域医療支援病院として近隣の医療機関の皆様との緊密な連携のもと、質の高い医療を提供できるよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

副院長・外科部長 谷 直樹

退任医師のお知らせ

病理診断科：安水 良知 小児科：眞弓あずさ



近隣医療機関のご紹介

あきた内科・循環器内科

〒651-1142 兵庫県神戸市北区甲栄台2丁目3-1 KITASUZU HAUS 2階

TEL 078-959-8711 FAX 078-959-8718

診療科目：内科、循環器内科



秋田朋己 院長

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～12:30	●	●	●	●	●	★	×
14:00～15:00 検査 (予約制)	○	○	○	×	○	×	×
15:00～18:30	●	●	●	×	●	×	×

★：土曜日午前は13:00まで

○14:00～15:00は心臓病検査・ペースメーカー外来
※当院での診療対象年齢は15歳以上です



はじめまして。今年6月に新規開院いたしました、あきた内科・循環器内科院長の秋田朋己（あきたともみ）です。当院は神戸電鉄「北鈴蘭台駅」から徒歩3分、KITASUZU HAUS（キタスズハウス）の2階にあります。

私は、これまで内科全般と不整脈・心筋梗塞・心不全などの循環器内科（心臓病）を主軸に診療を行なっておりました。開院までは博士号を取得した神戸大学病院をはじめ、兵庫県内の急性期・総合病院で長年勤務をしておりました。苦しい重症患者さんの診療に当たり、重症疾患の元となる生活習慣病（糖尿病・高血圧・高脂血症）を改善し、予防医療にも努め

たいと考えるようになりました。診療において、より詳しい検査や治療が必要になった場合でも、JCHO 神戸中央病院をはじめとする基幹病院と円滑に医療連携をとることができます。また現在、JCHO 神戸中央病院の循環器内科外来において木曜日午後の診療を担当しております。地域の皆様から愛され・必要とされる、そして些細なことでも気軽になんでも相談できる、ホッとできる「かかりつけ医」でありたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

お薬手帳を正しく活用出来ていますか？

薬剤部長 石井 哲也



医療機関でお薬を処方してもらっている方ならば、【お薬手帳】という言葉は、誰もが耳にしたことがあるのではないのでしょうか。では何故、【お薬手帳】が必要なのでしょう？【お薬手帳】活用の重要なメリットを3つ紹介します。

①飲み合わせが確認できる＜相互作用・サプリメント・市販薬＞

お薬手帳最大の役割のひとつが、薬の重複投与や相互作用の防止です。

同じような薬を知らずに二重でもらってしまったり、飲み合わせが悪い薬を併用したりしてしまうと、効果が落ちたり思わぬ副作用が出るリスクがあります。

②治療の継続性を高めることができる＜災害時・入院時・引っ越し＞

お薬手帳は、緊急時・災害時に命を守る手がかりにもなります。急な事故や発作で救急搬送された場合、患者自身が薬の情報を伝えられないケースがあります。

お薬手帳があれば救急搬送中に服薬情報などが把握できるため、素早く処置できます。

③情報が正確に伝わる＜薬の用法用量・治療の経緯・副作用・アレルギー＞

過去に服用した薬の情報を正確に記録するだけでなく、合わなかったお薬や体質、既往歴なども把握できます。はじめてかかる医療機関や薬局でも、【お薬手帳】を提示するだけで自分の情報を医師や薬剤師に伝えることができ、適切な医療を受けられます。

最後に以外と知らない？【お薬手帳】の正しい使い方

☆「お薬手帳は1人1冊」!!

病院ごとに別々の冊子だったり、家族分を1冊にまとめていたり、処方が変わったときだけ記録を追加する、といった使用方法では、正しい情報が伝わらない可能性があるため、「お薬手帳は1人1冊」を実践していきましょう。

【お薬手帳】と【マイナ保険証】の誤解

✗【マイナ保険証】があるから【お薬手帳】は必要ない

【マイナ保険証】のデータ更新までにタイムラグが存在します。そのため一番重要な直近の情報が洩れている可能性があります。安全のためにも【お薬手帳】は継続して使用しましょう

「北鈴〇〇部 北鈴まちなか文化祭」に参加して

外来・内視鏡部門 看護師長 辰井はるか

令和7年9月27日秋晴れの爽やかな一日、今年も「北鈴まちなか文化祭」に、救護班、イベントブース担当として看護師、臨床工学技士4名で参加させて頂きました。

イベントブースでは、看護師による輪投げコーナーを設け、約350名の方にお越し頂きました。お子さまには参加賞としてお菓子を、保護者の方には、当院健康管理センターの乳がん検診、子宮頸がん検診、脳ドックのご案内を行いました。皆さまから「入院時にお世話になりました」「毎年JCHOで健診を受けています」といった嬉しいお声を頂き、私達も地域とのつながりを改めて感じる良い機会となりました。また子育て世代の方からは、「出産後、健診に行けていない」といったお声もあり、今回のことで健診に行くきっかけになれば嬉しく思います。

今後も、「地域に根ざした病院」として、住民の皆さまに信頼されるよう職員一同、努めてまいります。



看護専門外来（糖尿病看護）の紹介

糖尿病看護認定看護師

慢性疾患看護専門看護師 看護師長 永瀬紗奈衣



看護専門外来の糖尿病看護では、糖尿病患者さんを対象に療養生活に関する相談対応やフットケアを行っています。2008年10月から運営を開始し、現在では週4日7人の看護師（日本糖尿病療養指導士など）が各曜日交代で対応しています。特に件数が多いのがフットケアで、全体の7割以上となっています。

フットケアでは、医師の指示の下で糖尿病による足のトラブルを予防するために、足の観察、日常生活の注意点についての説明、必要に応じて爪切りや胼胝（胼胝＝たこ）の処置などを行っています。療養生活に関する相談対応についても、インスリンなどの自己注射されている方を中心に、注射に関する困りごと、仕事と療養生活の両立といったお悩みなどに対応させて頂いております。費用は保険診療となり、3割負担の方で510円～となります（内容に応じて費用は異なります）。

糖尿病と共にある生活は、食事や運動に関する工夫が必要になります。生活の質を維持することも大切にながら、どのような工夫ができるのか、患者さんと一緒に考えていけるような外来を目指しています。また、糖尿病の方は足の感覚が鈍くなる場合があり、足の傷に気が付きにくくなることがあります。フットケアでは患者さんと一緒に足をよく見て触ることで、異常の早期発見ができるようにと考えてケアしています。これからも糖尿病患者さんの療養生活を支援していけるような看護専門外来を運営して参ります。



第8回 靴と足の健康相談会のお知らせ

主催：リハビリテーション科診療部



靴が原因で起こる様々なトラブルの予防について、靴の履き方・選び方やインソールの使用などについてアドバイスをします。歩いている時に「転びそうになる」「疲れやすい」「関節が痛くなる」などのトラブルでお悩みの方はご参加ください。

日時 11月18日（火）10時00分～12時（受付終了）

場所 総合受付前ロビー ※場所と日時は変更となる場合があります。院内ポスターにてお知らせします。

内容 所要時間は15～20分ほどです

- ・普段よく履く靴でいらして下さい。
- ・裸足になりやすい靴下でご来場ください。
- ・診断はおこないません。

お問い合わせ 理学療法室まで



足サイズ測定



フットプリント撮影





メディカル ライン

《医療機関向け》

循環器内科 医長 田中 麻里子



心房細動治療最前線： 全身麻酔下に行うパルスフィールドアブレーション

当院では2018年から心房細動に対してカテーテルアブレーション治療を施行しておりますが、この度2025年3月からパルスフィールドアブレーション(PFA)を開始しました。PFAは2024年9月に本邦で承認された心房細動の新たな治療法であり、瞬時に高頻度の高電圧をかけること(=パルスフィールド)により心筋細胞の細胞死を引き起こす新しいアブレーション方法です。パルスフィールドは組織特異性があるため、食道や神経、血管、肺などの心臓周囲の組織に対してダメージを与えることなく、心筋細胞だけをアブレーションすることが可能です¹。そのため本システムの原理はまさに理想的なアブレーション方法とされており、食道穿孔、肺静脈の狭窄、横隔神経障害、食道迷走神経障害などの重篤な合併症が非常に少ないことが大きな利点で、従来の方法と比較して同様の治療効果の治療をより安全に受けていただくことが可能です²。

一方、PFA施行時には咳反射が出現することが多く、個人差はあるものの鎮静剤のみではほぼ必発するという問題があります。咳反射により体が大きく動くと危険であり、治療にも影響を及ぼし、更に覚醒する場合もあるため鎮静を深くせざるを得ず、術後の覚醒遅延に繋がります。咳反射への対策として、当院ではPFA開始時から麻酔科医師の協力を得て筋弛緩剤を用いた全身麻酔下にPFAを施行しており、咳反射は全く出現しません。麻酔科医師がアブレーション中も専従しているため非常に安全で手術時間は短縮、術後の覚醒も早く患者さんの負担は大きく軽減しています。筋弛緩剤を用いた全身麻酔下でのアブレーションを施行している施設はまだ珍しく、当院の特徴であり、当院にてカテーテルアブレーションを受けていただく際の大きな利点と考えています。

日本では、心房細動を患っている患者さんが100万人を超えると推定されており、北区にも多くの心房細動の患者さんがいらっしゃいます。脳卒中、心不全のリスクを高める心房細動の治療は是非当院にご相談ください！

1 FD.Ramirez, Circulation Reserch 2020 / 2 Della Rocca DG, Europace. 2023 Dec 28;26(1)

当院で使用しているPFAカテーテル



PulseSelect™ (Medtronic社)



FARAPULSE™ (Boston Scientific社)

この度、つばさ第9号(2006年10月)において、誤った内容があったという指摘をうけ、確認いたしました。
おいしい栄養学の中で、れんこんが糸を引く粘り成分をムチンと説明していましたが、ムチンとは異なり、ペクチンという成分でした。
また、ムチンは植物全般に含まれていない成分でした。
誤った記述がございましたので、ここに訂正いたします。

栄養管理室 谷田